

## ロンドン留学を終えて

北海道教育大学札幌校  
言語社会教育専攻英語分野  
3年 山形 武

派遣先：SOAS University of London

私は2017年9月から2018年3月まで半年間イギリス・ロンドン大学アジアアフリカ学院に交換留学生として派遣されました。在籍したのはELASコースという主に各国からなる交換留学生やSOASの大学院に進学希望の英語を母語としない人々向けのアカデミック英語＋専門科目を学ぶコースでした。そして、学期末には筆記テスト、プレゼンテーション、専門科目についての2500wordsのエッセイが課され、自分は社会科学を専門科目としたので、「中国の海外鉄道投資拡大から見える一帯一路政策」などについてのエッセイを書きました。この半年間についていくつか振り返ってきたいと思います。

まずは語学についてですが、IELTS for UKVI と呼ばれるビザを取るための語学試験で一定スコアを超える必要がありました。そのため、出発約1年前の夏休みに東京で受験しました。基準スコアを超え、無事交換留学生として選ばれました。そのため、私費で行くと半年間で約150万円かかる学費が教育大に普段払っている学費のみになりました。しかし、応募した給付型の奨学金は次点で貰えず、生活費分は自分で貸与型奨学金を借りました。それが自分の借りているお金や本来かかっているはずの学費分の価値がある半年間にするというモチベーションにつながりました。最初は先生が言っていることが少ししか分からず、壁を感じることも多く、自分のスピーキングにも全く自信がなかったため発言ができなかったりしましたが、現地では大学の授業の他にシンガポール人の友達と週3日以上遊んだり、家でも英語字幕で映画を見たりして、日常会話やスピーキングを鍛えました。また、初めて知った単語やボキャブラリーを書いていくノートを作りできるだけ吸収率を上げるようにしました。その結果留学前から留学後でTOEICのスコアが約200点伸び、スピーキングに関してもネイティブのシンガポール人との意思疎通に問題はほぼないくらいにはなり、自信となりました。



工事中のビッグベンとロンドンバス

次に現地での生活についてです。海外で住むのが初めてであったのもあって、住むところは日本人が大家さんのフラットシェアと呼ばれるシェアハウスを選びました。一緒に住んだ日本人の方々が BBC のジャーナリスト、英国政府機関に厚生労働省から派遣されていた人や有名日系企業の駐在員そして、家主さんが誰もが知っているあるアニソンの作曲を手がけたミュージシャンというあまりにも豪華な方々でした。シェアメイトの皆さんにはよく共同スペースで飲み会をして、自分の進路や些細な話などを聞いていただけて、滅多に聞くことができない貴重な話を聞くことができました。世界の最前線で活躍している方々の話を 1 対 1 で聞けるこの機会は本当に貴重なもので、自分の人生観が大きく変わりました。その他にクラスメイトに外交官がいたりなど、普段絶対会えない職業や経歴を持つ方々と出会えるのが、世界三大都市に数えられるロンドンの魅力なのではないかと思いました。ただ、ロンドンには物価が非常に高く、一見ファストフードに見えるフィッシュ&チップスも外食だと普通に 2500 円くらいし、1000 円以下で満腹になるにはマクドナルドに行くか自炊するしか基本的にはありません。自分が住んでいたところではキッチンを使用できなかったのも、食費の高さはかなり痛手でした。どのようにしていたかというところ、ロンドンにはわさびという日本食弁当屋さんのようなお店がチェーン展開しており、そこら中にありました。そこではカレーやチキン照り焼きや酢豚などが 1000 円くらいで売られており、閉店 30 分前の半額セール時間を狙ってほぼ毎日通っていました。ロンドンで日本食が 500 円で食べられるのは本当に助かりました。また、ロンドンは日本人駐在員が多いロンドンでは日本食スーパーが多くあり、そこに行き、レンジでチンするご飯と納豆を買って食べていました。現地の日本人は食事面が滞在中にストレスになりがちであったので、留学先を考える際には食事はどうしていくのかを考えることも大切だと感じました。



水の都 ベネチア(イタリア)

留学といえば、異文化理解がよくキーワードとして挙げられますが、そのような意味でロンドンには非常に適したところでした。ロンドンからヨーロッパ各地へは LCC が発達していて、イギリス国内に留まらず、アイルランド、ドイツ、イタリアなどにお金を節約するために弾丸日帰り旅行をよくしていました。LCC は早朝と深夜便が特に安いのをいいことに朝の 3 時半に起きて終電で家に帰るといふ今振り返れば信じられない旅をしていまし

た。特に水の都ベネチアにたった往復 7000 円で行けたのは大満足でした。ヨーロッパ各国やトランジットで訪れたタイ・バンコクはそれぞれ日本とは町並みや食事など文化が本当に異なり、驚きの連続でした。留学中にたくさんの日本からなかなか行けない国々を周りたのであれば、ロンドンほど適した都市はないと思います。また、シンガポール人の友達の両親が中華圏の旧正月にロンドンに来た時にディナーに呼んでいただき、高級中華料理をご馳走になり、紅包(お年玉)までもらいました。中国にも日本と同じお年玉の文化があるのだと知り、中国にも興味を持ったので、オプションのクラスとして英語で中国語を勉強するクラスも取り、様々な文化に触れられた半年間でした。



旧正月にご馳走になった時の写真(右側)

これらを踏まえて、自分が充実した半年を過ごすことができた要因としては人に恵まれたということであったと思います。同じコースには英語科同期かつ軟式野球部同期の二人がいて、お互いに協力することができたのが本当に心強かったです。さらにフラットシェアの住人の方々だけではなく、早稲田などから来た優秀な日本人たちとも出会えて、自分の刺激になりました。そして、いつも一緒にいてくれたシンガポール人の友達がいなければ半年でここまで英語力は上がっていなかったと思います。よく、語学を伸ばすため留学中は日本人と関わるなど言われますが、自分は必ずしもそうではないと思います。特に長期留学ともなると日本語を全く話さないのは精神的に厳しく、英語を話すのが苦痛になってしまい、最初のモチベーションを保つのが難しいと感じたので、バランスが大切だと思いました。そのような意味では最後まで上手く息抜きをしながらモチベーションを保って英語を吸収し続けられたのは自分の成果だと思います。他に実用的な部分で言うと現地でクレジットカード払いをする場合は限度額に余裕を持って行くべきだと思います。先月分がまだ引き落としされていなかったため限度額を超えて、クレジットカードが使えなくなった時、親に振り込んでもらったり、国際電話をして限度額を上げてもらったりして面倒だったので、渡航前に済ませましょう。

最後に、先日シンガポール人の友達も来日して久々に東京で SOAS の友達で集合した際にはそれぞれが帰国後も目標に向かって積極的に行動している近況を聞いて、自分も更なる語学力の向上や進路実現のため自ら行動し続けなければいけないと感じたと同時に、留学はゴールではないと実感しました。皆さんにとっても留学が何かの良いきっかけとなることを願います。